

湯島天神巡り

A 湯島天満宮 湯島天神

湯島天神（湯島天満宮）は菅原道真公を祀り、学問の神様として全国的に知られ初詣には多くの人出でにぎわいます。受験の合格祈願で多くの受験生も訪れます。境内の梅の花も有名で、「湯島の白梅」（1942年）は大ヒットしました。ご利益：学業成就、試験合格、開運、厄除け、縁結び。



古来より江戸・東京における代表的な天満宮であり、学問の神様として知られる菅原道真公を祀っているため受験シーズンには多数の受験生が合格祈願に訪れるが、普段からも学問成就や修学旅行の学生らで非常な賑わいを見せている。また境内の梅の花も有名で、この地の梅を歌った「湯島の白梅」（1942年）は戦中時の歌として大ヒットした。境内の約300本の梅木のうち約8割は白梅である。

湯島の白梅 文豪・泉鏡花が明治40年（1907）元旦から4か月間、『やまと新聞』に連載した小説『婦系図（おんなけいず）』をテーマとした歌。歌自体は、昭和17年（1942）7月、東宝映画『続婦系図』（マキノ正博監督）の公開に合わせて、『婦系図の歌—湯島の白梅—』として作られました。当時の新聞広告では「東宝映画主題歌」となっていますが、映画の中では歌われていません。戦後、『湯島の白梅』と改題されました。『婦系図』は、尾崎紅葉の『金色夜叉』、徳富蘆花の『不如帰』とともに、明治の三大メロドラマともいべき作品で、大ベストセラー。



湯島の白梅



<https://www.asoview.com/note/648/>

①柳井堂 心城院 (湯島聖天)

当山は元々、湯島天神の別当寺であった天台宗喜見院の「宝珠弁財天堂」と称されていました。ときに元禄7(1694)年、喜見院第三世・宥海大僧都が、



道真公とご縁の深い歡喜天(聖天さま)を弁財天堂に奉安したのが当山の開基で、尊像は比叡山から勧請した慈覚大師円仁作と伝えられております。当時は、現在の湯島天神男坂下が湯島天神の表門にあたり、太田道灌の御殿・皓月亭跡とも伝えられています。享保のころ、寺門維持のため幕府から「富じ」が発行されま



した。江戸では、谷中感応寺(現・天王寺)、目黒瀧泉寺(目黒不動)、喜見院(湯島天神)が「江戸の三富」と言われ、大いに賑わいました。当時の喜見院はかなりの境域がありましたが、明治維新の神仏分離令で惜しくも廃寺となりました。当然、弁財天堂もその影響を受けるところでしたが、聖天さまの御加護により湯島天神との本末関係を断つのみで、奇跡的に廃仏の難を逃れました。単独の寺院として歩み出した当山は、建立当時の因縁により天台宗に属し、寺名を「心城院」と改めました。当山は、開基以来幾度となく発生した江戸の大火や関東大震災、東京大空襲の戦火にも遭うことなく法灯を伝えてきました。しかし、約300年の風雪に耐えた本堂や庫裏は老朽化が甚だしくなり、近年に改修され寺観を一新しました。

<http://www.shinjyo-in.com/about/>

②教証寺・真宗大谷派

教証院は、(浄土)真言大谷派の寺院。旧岩崎邸庭園や上野公園不忍池からも近い。寛文7年(1667年)創建。本堂と客殿は国登録有形文化財。



特に本殿は江戸期の土蔵造りで、錦絵が施されている。教証寺の縁起。教証寺は、徳川忠長に嫁いだ教証院殿(長姫)が、その子息久遠寿院殿(後の東叡山寛永寺二世)に従って、上野下の当地に教証院と号して起立、教証院殿の二十五回忌の寛文7年(1667)教証



寺と改めたといひます。客殿は明治42年建造で国登録有形文化財。境内の背後から見える。教証寺=教証寺?

<http://www.visiting-japan.com/ja/articles/tokyo/j13tt-kyoshoji.htm>

③福成寺

真宗大谷派寺院の福成寺は、了意（俗姓西尾権守）が江戸神田に慶長年間（1596-1615）起立、寛永2年（1625）当地へ移転したといわれます。



御府内寺社備考による福成寺の縁起

東本願寺末 池之端仲町

福成寺 境内古跡拝領地 112 余坪持漆地 45 坪
余合 157 坪。

慶長年中武州豊島郡江戸神田ニ住居相定申候。
然ル処二代目了円之代ニ寛永 2 年下谷仲町へ転
地起立仕候。開山了意。三州加茂郡西尾権守と

申武門ニ而御座候。然
所本山 13 代目宣如上
人関東御経過廻之砌
帰依仕、御弟子ニ相成、
法名を了意と賜る。承
応元年 3 月 26 日卒去。

中興了円法師。（御府
内寺社備考より）不忍
池の南西側にある真宗
大谷派の寺院です。近



代的なコンクリート造りの寺院ですが、周囲の環境が
ちょっとイマイチ・・なので、わざわざ観光で行く寺院で
はないように感じました。岩崎庭園が近いので、あわ
せての訪問でしたらアリかな？と思います。

https://tesshow.jp/taito/temple_ike_fukuj_o.html

④麟祥院

ホテル機山館のある本郷三丁目から春日通りを湯
島・上野方面に 10 分ほど歩いたところ、学問の神
様で有名な湯島天神のすぐ手前にあります。



この麟祥院は、かの有名な大奥、春日局の法号が
その名になっており、中

には春日局のお墓が
あります。この麟祥院の
入口が面している春日
通りも、徳川家から賜
った春日局のお屋敷が
あったことがその名の
由



来となっています。当時の勢力の大きさが伺えますね。
さて、この麟祥院ですが、中は都心とは思えないほど
うっそうとした緑が茂っており、夏場の明るい日でも非常
に落ち着ける空間でした。まさに都会のオアシスと言
うにピッタリなところですよ。春日忌天澤山麟祥院の開基
である春日局(斎藤福)は寛永 20 年(1643 年) 9
月 14 日にお亡くなりになり、法号は麟祥院殿仁淵



了義尼大姉であります。1
0 月 14 日に「春日忌」と
して麟祥院開基様を偲び
追善供養を行います。開山
様の供養として、毎年 2 月
26 日に開山忌を行って
おります。渭川周劉禅師は、
永禄八年野州小山に生ま
れ、宇都宮興禅寺の湛堂

祥激和尚について得度、物外招播和尚（播揚大教禪師）について修行致しました。そして、永年諸国を修行し、野州大柿村の太白山龍興寺に住職されました。後に、師の跡をついで興禅寺に移りましたが、局の特請により当院の開山住職となられました。寛永十九年（1642）二月二十六日世寿七十八歳にして遷化。

<https://www.rinshouin.jp/>

⑥真言宗靈雲寺派寺院の靈雲寺

1691年に「浄厳和尚」によって創建された「靈雲寺」は、正式な総称を「真言宗靈雲寺派総本山 宝林山大悲心院 靈雲寺」と言い、五代将軍徳川綱吉の命によって、徳川幕府の永代祈願所として設けられました。「絹本著色弥勒曼荼羅図」をはじめとした重要文化財を多く所有していますが、そのほとんどが「東京国立博物館」に寄託されています。それ以外にも「絹本著色薬師三尊像」をはじめとする、文京区指定の有形文化財も多く所有しています。関東大震災と第二次世界大戦の際に焼失してしまったために、現在の本堂は1976年に再建されたもの。



靈雲寺は、元禄4年（1691）徳川幕府の永代祈願所として、江戸城から見て鬼門にあたる北東（艮）の当地に創建、元禄6年には寺領100石の朱印状を拝領、また塔頭7ヶ院、末寺46ヶ寺を擁していた真言律宗の本山だとい



ます。靈雲寺が所蔵する名宝と当館所蔵の関連資料をともに展示し、靈雲寺と寺宝の魅力、開基浄厳の行状について紹介いたします。浄厳自筆の梵書や、独自の解釈による両界曼荼羅、また当館法隆寺献納宝物にある浄厳ゆかりの品々が一堂に並んでいます。

https://tesshow.jp/bunkyo/temple_yushima_reiun.html

⑥神田明神

江戸東京に鎮座して1300年近くの歴史をもつ神田明神。江戸時代には、「江戸総鎮守」として将軍様から江戸庶民にいたるまで江戸のすべてを守護されました。そして今もなお、東京一神田、日本橋、秋葉原、



大手町・丸の内など108の町々の総氏神様として、江戸の素晴らしき伝統文化を保ちつつ、それでいて絶え間なく発展と創造を繰り返す、この東京都心をお守りいただいております。



神田明神の氏子町である東京108の町は、江戸と東京の生活や文化が凝縮された町々です。神田一元祖下町、江戸っ子たちの血を受け継ぐ町々日本橋一老舗が集まる江戸の衣食住の文化を伝える町々。伝統と創造を併せ持つ、これらの町々を常に見守り続ける明神様。そんな明神様を慕い敬う参拝者で、境内は毎日賑わいを見せております。

<https://www.kandamyoujin.or.jp/>

⑦講安寺

講安寺は、慶長 11 年(1606 年)に湯島天神下に創建されたお寺でしたが、後に元和 2 年(1616 年)に現在地に移転してきたと伝えられています。昭和 3 年、松が谷宗安寺と合併しました。外壁が漆喰で何



度も塗り込められた土蔵造りの本堂は、火事に悩んだ江戸の人たちの防火対策の知恵である。区指定文化財となっています。東大・赤門で有名である、將軍家斉の息女で溶姫の生母であった、お美代の方が、明治 5 年、77 歳で亡くなるまでここ講安寺に住んで



いたことでも知られています。東京メトロ湯島から徒歩で 5 分のところにあります。東大・赤門で有名な將軍家斉の息女溶姫の生母であるお美代の方は、明治 5 年 77 歳で亡くなるまで講安寺に住んでいた。浄土宗寺院の講安寺は、専修山称仰院と号します。講安寺は、慶長年間湯島天神下に創建、元和 2 年(1616)当地へ移転、昭和 3 年 8 月 29 日、松が谷宗安寺と合併したといひます。講安寺本堂と庫裡は、土蔵造りという防火建築様式を残しており、文京区文化財に指定されています。

<https://www.city.bunkyo.lg.jp/bunka/kanko/spot/jisha/koanji.html>

⑧不忍池弁天堂

不忍池辯天堂は、江戸初期の寛永年間に、天台宗東叡山寛永寺の開山、慈眼大師天海大僧正(1536~1643)によって建立されました。天海大僧正は、「見立て」という思想によって上野の山を設計していきました。これは、寛永寺



というお寺を新しく創るにあたり、さまざまなお堂を京都周辺にある神社仏閣に見立てたことを意味します。例えば「寛永寺」というお寺の名称は、「寛永」年間に創建されたことからついたのでありますが、これは「延暦」年間に創建された天台宗総本山の「延暦寺」というお寺を見立てたものです。こうして天然の池であった不忍池を琵琶湖に見立て、また元々あった聖天が祀られた小さな島を竹生島に見立て、さらに水谷伊勢守勝隆公と相談して島を大きく造成することで竹生島の「宝蔵寺」に見立てたお堂を建立したのです。琵琶湖と竹生島に見立てられたお堂であったため、当初はお堂に参詣するにも船を使用していたのですが、参詣者が増えるにともない江戸時代に橋がかけられました。昭和 20 年の空襲で一帯は焼けてしまいましたが、お堂は昭和 33 (1958) 年に復興。昭和 41



(1966) 年には児玉希望画伯による龍の天井絵が奉納されました。

<http://bentendo.kaneiji.jp/>

⑨ 下町風俗資料館

東京・上野にある下町風俗資料館。1980年10月1日に開館して以来、下町文化を後世に残していきたいという思いで展示を行っています。一番の魅力は、レトロな雰囲気や「体感」できること。銭湯の番台



に上がることができたり、当時のおもちゃで遊べたりと、全身を使って当時の生活を体感することができます。館内は大正時代の町並みが再現された1階と、下町の暮らしを体感できる展示が多数ある2階に分かれています。順番に紹介していきます。1階には商店や長屋などが展示され、江戸の風情を残す東京・下町の街並みが再現されています。それぞれの展示物の中には生活道具など

の生活道具などの小物があり、実際に手に取ることができます。下町の表店（おもて



だな）が再現されています。規模の大きな商店を大店（おおだな）と呼ばれています



が、その中でも表通りに面して建てられている大店は表店（おもてだな）と呼ばれています。



<http://www.taitocity.net/zaidan/shitamachi/>

<https://www.asoview.com/note/756/>

⑩ 国立近現代建築資料館

2012年11月に設置された建築資料を専門に扱うアーカイブ施設です。日本の近現代建築に関する建築資料（図面等）について、劣化・散逸・海外への流出などを防ぐことを目的として、その調査・収集・保管・公開を推進しています。



⑩ すべての写真 (3枚)



資料館エントランス

近現代建築に関する資料や模型を展示

旧岩崎邸庭園の隣にあります。館内には建築関係資料や模型が展示されています。国内外でも

高い評価を受けている貴重なものを見学できます。近現代建築に関する資料の劣化、散逸、海外への流出を防ぐため、収集、保存などの活動も行っているそうです。旧岩崎邸庭園のチケットで入れます。旧岩崎邸も窓からよく見えます



<http://nama.bunka.go.jp/>

⑩旧岩崎邸庭園

三菱財閥岩崎家の茅町本邸だった建物とその庭園を公園として整備したもの。現在は洋館・和館・撞球室が残存しており、洋館部分は1896（明治29）年、三菱財閥の三代目である岩崎久彌（三菱創業者・岩崎彌太郎の長男）が建築家ジョサイア・コンドルに設計させたものです。ちなみにコンドルは、鹿鳴館（現存せず）やニコライ堂（御茶ノ水）、三井倶楽部（港区）などを設計した人物で、弟子に東京駅や日本銀行を設計した辰野金吾などがいます。さて、



洋館岩崎家の本邸として年に一度の岩崎家の集まりや、外国からの賓客の宿泊に利用し、またパーティーに使用されたものですが、この洋館とつながる形で、岩崎家の住居である和館も建築され、普段はこちらを使用していました。



戦後は最高裁判所研修所等に使用。この時に和館の方は大広間をのぞき、大部分が壊されました。

<https://www.tokyo-park.or.jp/park/format/index035.html>

⑪切通坂

湯島の天神下交差点から本郷方面に抜ける通りの坂道が切通坂と名付けられています。普通の通りではありますが、左手には湯島天満宮を望み、湯島天満宮付近は石垣のようになっていて見ごたえがありました。



「御府内備考」には「切通は天神社と根生院との間の坂なり、是後年往來を聞きし所なればいふなるべし。本郷三、四丁目の間より池の端、仲町に達する便道なり、」とある。湯島の台地から、御徒町方面への交通の便

を考え、新しく切り開いてできた坂なので、その名

がある。初めは急な石ころ道であったが、明治37年（1904）上野広小路と本郷三丁目間に、電車が開通してゆるやかになった。映画の主題歌「湯島の白梅」"青い瓦斯灯（がすとう）境内を 出れば本郷切通し"で、坂の名は全国的に知られるようになった。また、かつて本郷三丁目交差点近くの「喜之床」（本郷2-38-9・新井理髪店）の二階に間借りしていた石川啄木が、朝日新聞社の夜勤の帰り、通った坂である。二晩おきに夜の一時頃に切り通しの坂を上りしも 勢いなればかな 石川 啄木

https://www.tripadvisor.jp/Attraction_Review-g1066442-d1373754-Reviews-Kiridos_hizaka_Slope-Bunkyo_Tokyo_Tokyo_Prefecture_Kanto.html





A 湯島天神

- ① 柳井堂
- ② 教證寺
- ③ 靈雲堂
- ④ 神田明神
- ⑤ 福成寺
- ⑥ 麟祥寺
- ⑦ 講安寺
- ⑧ 不忍池弁天堂
- ⑨ 下町風俗資料館
- ⑩ 国立近現代建築資料館
- ⑪ 旧岩崎邸庭園
- ⑫ 切通坂



湯島天神巡りは

『湯島天満宮周辺の観光スポット・観光名所』を元に作成しました。

https://www.tripadvisor.jp/AttractionsNear-g1066442-d1373753-Yushima_Tenmangu-Bunkyo_Tokyo_Tokyo_Prefecture_Kanto.html

